

令和元年度（2019年）度 追手門学院小学校 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

『伝統と革新の教育で、世界で活躍するグローバルリーダーを育成する』

『建学の礎として、人格形成を第一儀としつつ、最先端の教育環境による「革新」をも備えたゆるぎない伝統校』

2 中期的目標

- (1) 「志の教育」の実践強化
- (2) ICT を活用した学びの実践
- (3) 児童カルテの構築に向けた基盤整備
- (4) 英語授業の進化
- (5) 教員の英語指導力向上

【保護者アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

| 保護者アンケートの結果と分析（令和元年 11 月実施） | 学校関係者評価委員会からの意見 |
|---|---|
| <p>*そう思う：3、どちらかといえばそう思う：1、どちらかといえばそう思わない：-1、そう思わない：-3、わからない：0の加重平均</p> <p>【良かった点】（学校園「目標」実現のための取り組みとその「成果」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者満足度の指標となる「入学を勧めますか？」では、「はい」「どちらかといえばはい」の肯定派が85.8%と高い値を示している。 ・本年度、調査項目（ポイント加重平均）の全体平均は1.91となり高評価となった。その中では施設設備の充実が2.65で最高ポイントとなり、メディアラボや電子黒板の導入が高評価に繋がったと考えられる。同時に学校目標であるICT教育のポイントが高く、成果が表れている。 *2ポイントを超えるとかなり高い。1ポイントで普通。 <p>「ICT教育を積極的に授業に取り入れ、効果的に利用している」…2.09</p> <p>「学校は、縦割り清掃や大阪城活動、緊急下校訓練などを通して、異学年交流を充実させている」…2.33</p> <p>「学校は、クラブ活動・放課後活動・OTEMON講座など、放課後の過ごし方を充実させている」（2年生以上）…1.93</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新項目の「学校は、こどもの英語力（聞く・読む・話す・書く）を伸ばす指導をしている」…1.64 ・総合学園としての長所では昨年よりポイントが向上し0.77となった。合同文化祭などの成果が出たと考えられる。 <p>【改善点】（学校園「目標」実現のための取り組みとその「課題」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「志の教育」ポイント加重平均は、昨年度の1.77ポイントから1.55ポイントに下がった。 ・「入学を勧めますか？」の「いいえ」「どちらかといえばいいえ」の否定派は、12.9%と昨年度を上回った。 ・「中学進学指導」も5年生時よりは数値が上がったものの、0.87に留まった。 <p>【対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育（出前授業）」「道徳の授業」などの取り組みを、We are OTEMON! などを利用して更に保護者にアピールすることで数値回復を目指したい。 ・本年度の取り組みを専科教員も含めて振り返り、児童の学力伸長に適した6年生コース別学習の形を検討していきたい。 ・英語力向上に関しては、来年度多読を導入するなど、更に英語力向上を目指す。 | <p>【第1回委員会が出された意見と回答】令和元年5月31日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本文化を教える機会はどのような場面か。 ⇒授業では、1～4年生の「礼法」の授業と5、6年男子の剣道などがあげられる。 ○厳しい教えとは⇒教育における「厳しさ」の質が変わってきている。時代に即して対応している。 ○心が折れやすい子供が増えていると聞くが⇒色々な行事、学校生活を通して、強い精神力と忍耐力をつけていく努力をしている。 ○教育における数字目標とは⇒教育において、数値に置き換えるのは、大変難しいが、今後、可能な限り数字目標を出していくように研究していく。 <p>【第2回委員会が出された意見と回答】令和元年11月1日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新東館メディアラボの活用はどのようなか⇒イングリッシュゾーンを活用した英語教育など順調に進んでいる。また、プログラミング教育など大きく発展した。 ○東南アジアにも目を向けたグローバル教育を進めては⇒アジアも考えていきたい。視察団については、積極的に受け入れている。 ○いろいろな専門部署を設けてはどうか⇒スクールロイヤーなどを検討している。 ○障がい者の方の理解はどのようになっているか⇒手話の講演会や車いすバスケットや盲導犬の授業などを実施してきた。 ○追手門のブランドを大切にしてほしい⇒今後も良い教育を提供していきたい。先生方の魅力が一番大事なので、余分な仕事を減らして、専念できるようにしていきたい。 <p>【第3回委員会が出された意見と回答】令和2年2月25日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTに力を入れていてよい。他校との差別化ツールとしてもっとアピールしてよい。⇒メディアラボの完成、BYOD、電子黒板の全教室導入がいいタイミングで同時期に行われ成果を挙げている。 ○デジタルだけでなく実物に触れることも大切にしてくれている。⇒本校は昔から体験的な授業を重視している。今後も、ICTとバランスよく授業を組み立てていきたい。 ○登下校の指導に先生方の時間がとられているように感じる。⇒学校が責任を持つ部分と家庭が責任を持つ部分をはっきりして、協力を求めたりしながら、粘り強く指導に当たりたい。 ○自信をもって教育に取り組んで欲しい。⇒学校評価の自由記述でも、感謝の言葉も多い。私学として建学の精神を忘れずに自信をもって教育に邁進したい。 ○期末報告書の達成評価は、Bが多い。もっとAをつけてもよいと思う。⇒継続的な内容が多いのでB（概ね達成と判断するが、永続的課題として遂行中）が多くなる。Aを目指して今後も取り組んでいきたい。 |

2 本校の取り組み内容および自己評価

| 中間的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|------------------------|---|---|--|--|
| 1 「志の教育」の 実践強化 | ①キャリア教育の推進 ②人材の発掘 ③礼儀礼節 ④生活指導の見直し | ①児童が特に強い憧れを抱くキャリアを有する人材の選定と来校の打診を行う。 ②大学 1,2 回生となる追小卒業生への進学先調査を実施する。 ③礼儀・礼節に関する評価基準を設け、児童一人ひとりのレベル評価を実施する。 ④生活実態調査の実施準備を行う。 | ① 5 名以上リストアップのうえ打診 ②リストの作成 ③各クラスに一覧表を作成 ④アンケートの立案・検討 | ①適任者 2 名を確定できた。 今後はキャリア調査も活用しながら児童の志育成につなげたい。 ②100 期生～125 期生を対象に WEB アンケートを実施しリスト作成を行った。 ③礼儀・礼節に関する評価基準を設け一覧表を作成した。 ④生活実態調査の実施準備としてアンケートの立案・検討し調査を行った。 |
| 2 ICT を活用した 学びの実践 | ①プログラミング授業の指導と ICT 活用の授業研究 | ①ICT 活用の授業研究を行い、新たな指導方法を試行的に実践する。 | ①先進事例・ベストプラクティスの研究 15 件以上 ・現地調査 3 件以上 ・ICT 活用をテーマとした検討会議 1 回/月以上 ・全教員による ICT を活用した研修授業の実施 | ①先進事例やベストプラクティスの研究を 15 件以上行い、調査のために 3 件以上先進校などを訪問した。メディア教育部を中心に ICT 活用をテーマとした検討会議や打ち合わせを月一回以上行った。全教員による ICT を活用した研修授業を実施した。 |
| 3 児童カルテの構築に向けた 基盤整備 | ①e ポートフォリオのコンテンツ開発 ②評価基準の構築検討 | ①e ポートフォリオのコンテンツ開発及び掲載可能なシステム整備を進める。 ②ルーブリック評価などのパフォーマンス評価の研究と導入。 | ①先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・現地調査 1 件以上 ・ポートフォリオをテーマとした検討会議 1 回/月以上 ・学習成果物や記録の精選とデジタル保存 3 つ以上/児童 ②先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・ルーブリック等のパフォーマンス評価をテーマとした検討会議 1 回/月以上 | ①先進事例やベストプラクティスの研究を 5 件実施。月例に限らず複数回の検討会を実施した。児童の保健・行動・特性などのデジタル保存を行った。また、現地調査として 1 校訪問した。学習成果物のデジタル保存については新しい課題が見つかったため再検討したい。 ②評価基準の構築として、先行事例、ベストプラクティスの研究を 5 件行った。ルーブリック評価の検討会を 8 回行った。パフォーマンス評価がすべての研究授業で活用されるようになった。 |
| 4 英語授業の 進化 | ①モジュール授業の増加 ②姉妹校とのコラボ授業 ③大阪城プログラムの実施 ④国際コースの検討 | ①モジュール授業の 1 回あたり時間を短縮し回数を増加する。 ②姉妹校との協議及び必要なハード面の整備を行い、姉妹校とのコラボ授業を試行的に実施する。 ③昨年度作成した大阪城ノートに基づき「大阪城プログラム」を試行的に実施する。 ④初等中等室と連携し、国際コースやイマージョンの展開に関する法令や制度設計上の調査を実施。 | ①15 分×3 回/週⇒10 分×5 回/週で実施 ②交流授業を 1 回以上実施 ③研修授業を数回実施 課題や今後の展開をテーマとした検討会議を実施/各学期末 ④法令や制度設計上に関する調査結果報告書の作成 | ①モジュール授業を 15 分×3 回/週から 10 分×5 回/週に改定し、「書く」技能を中心に実施した。毎日英語に触れる環境作ったことで語彙力の強化につながった。 ②オーストラリア姉妹校の教員が、6 年生児童を対象に計 4 時間の授業を行った。また、交流行事の打ち合わせなど同じシステムを使って 3 回行った。 ③「大阪城プログラム」を試行的に 3 回実施した。課題や今後の展開をテーマとした検討会議を 3 回実施した。 ④初等中等部と連携し、国際コースやイマージョンの展開に関する法令や制度設計の調査を実施し報告書の作成を行った。 |
| 5 教員の英語 指導力向上 | ①外部検定試験の受験 ②海外英語研修や校内英語研修の実施 ③学習到達目標の明確化 | ①外部検定試験（英検など）の受験 ②海外英語研修を継続するとともに外部検定試験対策を取り入れた校内英語研修を任意開催し、制度化に向けた対応を検討する。 ③学習到達目標の明確化に向けた検討を実施する。 | ①原則全教員 1 回/年 ②姉妹校との教員交換 1 名/年 ・セブ島英語研修 2 名/年 ・校内英語研修 概ね 1 回/週 ・予算や時間の確保等、制度化に向けた検討・調整を実施 ③CAN-DO リストの先進事例・ベストプラクティスの研究 5 件以上 ・学習到達目標・評価をテーマとした検討会議 1 回/月以上 | ①英検実施日が学校行事と重なることが多く、全員の受験はかなわなかった。今後は英検 CBT を進めていきたい。 ②姉妹校との教員交換を 8 月に実施した。セブ島の研修については、現地の組織が不安定だったため今年度見送った。研修場所、研修方法を検討する。概ね週 1 回火曜日に教員英会話研修を実施した。現在、自己啓発として実施している教員英会話研修を制度化に向けて進める。 ③学習到達目標の明確化に向けた CAN-DO リストの先進事例・ベストプラクティスの研究を 8 件行った。担任と英語科教員が検討し、モジュール授業での「書く」についての到達目標を定める。 |